

## 2020（令和2）年度 自己評価・学校関係者評価書

学校法人スピノラ学園 双百合幼稚園

## 1 教育目標

目標～神さまに愛されていることに気づき、神さまと共に歩む子ども  
 ☆自分で考え 行動できる子ども  
 ☆元気に活動する たくましい子ども  
 ☆心情豊かな子ども

## 2 本年度の重点課題

- 1 教職員の連携を密にしながら、互いに切磋琢磨し、資質向上を目指す。
- 2 環境を生かした保育内容の充実を図り、「双百合」のよさを更に高める。
- 3 地域の自治会、小中学校、関係機関等との関わりを深めていく。

## 3 評価項目の達成及び取り組み状況

◆A；十分達成されている、B；達成されている、C；取り組まれているが成果が十分でない、  
 D；取り組みが不十分、Eどちらもいえない （※%は小数点第1位を四捨五入）

◆評定A；自己評価A・Bが80%以上、B；A・Bが60%以上、C；A・Bが60%未満

	評価項目	取り組み状況	評価	%	評定
1	キリスト教 保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修道院の環境の変化があったが、朝礼・食事・降園時の祈りや、毎月の「宗教の時間」を通して、神さまの愛に触れながら「双百合の4つの心」について考えることができた。</li> <li>・毎月の聖歌やマリア祭、クリスマス会、セリア・メンデスの日等の宗教行事を通して、神さまの愛について深めるよう努めた。</li> </ul>	A	31	B
			B	38	
			C	0	
			D	6	
			E	25	
2	教育課程の 編成・実施 に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画や月カリキュラムを作成し、学年毎に毎月の評価・改善を図った。</li> <li>・小学校へのつながりを検討したり、新幼稚園教育要領の趣旨や内容の理解に努めたりして、保育計画の改善・充実を図った。</li> </ul>	A	25	B
			B	50	
			C	6	
			D	0	
			E	19	
3	保育の計画 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に合わせた教材選びやテーマを定めた系統性のある保育など、内容の工夫に努めた。</li> <li>・子どもの育ちや変容を、学年の担任や保育補助の教職員と共通理解しながら把握することができた。</li> </ul>	A	38	A
			B	44	
			C	6	
			D	0	
			E	13	
4	保育のあり 方 幼児への対 応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育担当の教員を中心に、一人一人の傾向や特徴を把握し、特に思慮や援助が必要な子どもについては、教職員で情報を共有することができた。</li> <li>・子どもへの対応も、特別支援教育担当が計画的に進めるとともに、学年や多くの教職員で共通理解しながら進めるよう努めた。</li> </ul>	A	69	A
			B	19	
			C	0	
			D	0	
			E	13	
5	安全への	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育年間計画に基づき危機管理マニュアルを改訂し、日常の</li> </ul>	A	31	

	配慮	<p>保育に生かすことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災、地震、不審者対応の訓練を毎月行うとともに、遊具、施設設備の点検で、安全への意識を高めるよう努めた。</li> </ul>	B	56	A
			C	6	
			D	0	
			E	6	
6	健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウィルス対策を継続しながら、保健計画に基づいた手洗い・うがいの習慣化など基本的な生活習慣を養うよう努めた。</li> <li>・食物アレルギー等の健康管理を保護者や給食業者等と連絡を取りながら進めることができた。</li> </ul>	A	56	A
			B	38	
			C	0	
			D	0	
			E	6	
7	研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、カトリック園関係の研修が中止になるなど機会を十分に得ることができなかった。</li> <li>・オンライン研修の時間確保を行い、研修の確保に努めた。</li> <li>・ICT活用担当の教員を中心に、全職員がクラウドコンピューティングの研修を行い、保育業務への活用を進めた。</li> </ul>	A	0	C
			B	38	
			C	44	
			D	19	
			E	0	
8	教師の専門性と資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修会を計画的に行うことができたが、リトミック研修ではコロナによる移動制限で講師招聘ができなかった。</li> <li>・キンダーカウンセラーによる教育相談や子ども支援の研修により、児童理解を深めることができた。</li> </ul>	A	6	B
			B	69	
			C	19	
			D	0	
			E	6	
9	保護者や地域への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者には丁寧、誠実に対応し、日常の電話や個人懇談等で相互理解に努めた。</li> <li>・特別支援教育担当を中心に、岸和田市、和泉市等の支援機関と連絡を取りながら、子どもの支援に生かすことができた。</li> <li>・子育て支援では、バンビ親子教室担当の教員を中心に活動内容の充実を図り、幼児教育の理解も進めることができた。</li> </ul>	A	31	A
			B	63	
			C	0	
			D	0	
			E	6	

#### 4 総合的な評価結果(重点課題を含め)

<p>○チームワークの良い双百合幼稚園</p> <p>普段のコミュニケーションに良く努め、協力し合ったり、助け合ったり、周りと調和しながら教職員の連携を進めることができた。</p> <p>○『愛する心』の双百合幼稚園</p> <p>一人一人の子どもの特性をつかみ、どの子も受け入れる心をもって、全教職員で共通理解しながら対応を進めることができた。</p> <p>○開かれた双百合幼稚園</p> <p>コロナ禍の中、各行事への保護者参観を制限せざるを得ず、教育・保育の活動状況を十分伝えることができなかった。また、教員研修も極めて厳しい状況になり、研修の成果を十分に上げることができなかった。日常の保護者との連携については、誠実・丁寧な対応に心懸け、相互理解を深めるよう努めた。</p>
--

#### 5 今後の課題

<p>○特色ある園づくり～カトリック園として、また、環境を活かした『双百合のよさ』を高める。具体的には、「遊びを通して学ぶ」を基本に据え、子ども達が様々な環境構成の中で主体的に活動することを中心にした保育活動を進める。また、自分で考え行動できる子どもの育成を目標に、物的環境、自然環境、社会的環境等の構成をさらに工夫する。特に、本園の大きな特色でもある広大な敷地と四季</p>
--

折々の自然に恵まれた環境を生かすとともに、最も重要な人的環境である保育者の資質・能力の向上に努める。

- ICT活用の重要性～園運営でのICT活用を進めるとともに、様々な場面で適切な情報を発信していく。
- 特別支援の推進～一人一人の子どもたちの多様性、個性を包み込む教育・保育をめざし、保育環境のや指導の改善を進める。
- 地域との連携～幼小の交流・連携を含め、地域との関わりを深めて子どもたちの支援や成長につなげる。
- 研修の充実～園内外の研修を積極的に進め、教職員の資質向上を図る。
- 子育て支援～認定こども園として、教育・保育内容の充実を図るとともに、様々な場面や機会を通して子育て支援の充実を図る。

## 6 学校関係者評価

- ・「双百合」の良さである“祈る心、愛する心、感謝する心、頑張る心”が日々の保育に反映されていると感じることが多く、「双百合」にしかない良さが昔と変わらず引き継がれている事が園の魅力と感じた。
- ・今年度の重要な課題である「健康・安全」に関わる項目や、教育活動の基本である子ども達への理解、それを支える保護者への対応などの項目について「A」の評価であったことは心強く思った。
- ・今期についてはアプリの強化、積極活用が保護者へのスムーズな連絡事項の周知につながった。現在試行中のバスルートの運行、位置情報確認機能についても、とても便利で使いやすく、ぜひ今後も強化して欲しい。
- ・沢山の先生で子ども達を保育する事は、沢山の目で子供を見守れるので良い反面、報告・連絡・相談の徹底が難しくなるため、保育に関わる全ての人達に周知を徹底して頂きたい。園全体が一つになる事はなかなか難しい事だが、引き続き、そのチームワークは双百合の強みとして持ち続けて欲しい。